

稲作の乾燥調製施設及び農業用機械の維持管理に係る
アンケート調査結果のまとめ（抜粋）

調査期間：平成28年5～6月、調査手法：普及センター職員による聞き取り

調査対象：府内で稲作経営や稲作の農作業受託を行う農業法人、

稲作経営面積が20ha以上（受託含む）の経営体

回答数：58件（農業法人56件、個人2件）

○経営状況

（田植）10ha未満：38%、10ha以上：62%

（収穫）10ha未満：31%、10ha以上：69%

（乾燥調製）0袋：31%、1～1,000袋：14%、1,001袋以上：50%、その他：5%

○育苗・乾燥調製で利用する施設・機械の保有状況

（育苗用ハウス）0棟：47%、1棟～：53%（播種機）0台：48%、1台～：52%

（田植機）0台：3%、1台～：97%（コンバイン）0台：3%、1台～：97%

（乾燥機）0台：26%、1台～：74%（色彩選別機）0台：50%、1台～50%

○育苗・乾燥調製で利用する施設・機械の整備（点検・修理）状況

・自ら点検・修理：23%、修理のみ外注：56%（含点検なし11%）、全て外注：21%

○機械の保守点検や修理・修繕についての意見

- ・水稲用機械は価格が高く、更新が難しく、維持管理が困難
- ・修理代が高く、そのための経費がばかにならない
- ・自らメンテナンスを行いたいが、修理用の施設や工具類に経費がかかる
- ・機械整備を外注すると経費が高く、経営が成り立たない。機械を点検できる人材雇用への補助があればいい。
- ・電子制御の機械が増えて、自らでの維持管理が難しくなっている。

○農業農村の維持のため、地域の施設はどのようなことを充実すべきか

- ・小ロットでの管理が可能な乾燥調製ライン（ミニライスセンター等）
- ・高精度な精米施設（色彩選別機等）
- ・経費節減のため、フレコン出荷に対応した設備の導入（荷受先のフレコン対応も）
- ・既存施設のリフォーム、改造によるライン化
- ・主たる農業経営者で地域単位の乾燥調製施設の再編
- ・労力軽減のため、簡易な運搬機械（米袋運搬機、フォークリフト等）への助成制度
- ・米の貯蔵施設や保冷庫の設置や増設

○地域で必要とする設備、機械等

(「稲作の乾燥調製施設及び農業用機械の維持管理に係るアンケート調査結果のまとめ」補足)

充実が希望されている設備・機械	小売価格例(万円)	事業	対応可能な事業と要件等
ミニライスセンター			
乾燥機	200	①②	①京の輝き・こだわり京都米づくり応援事業(京の米産地力強化事業) 3戸以上の組織 5ha以上の規模拡大計画 酒米、特別栽培米の生産 (または過去3年の平均1等米比率が80%未満であること) 補助率 4/10(府単費:中古不可)
粃タンク	20	②	
粃摺機	170	①②	
米選機	40	①②	
色彩選別機	280	①②	
計量機	50	①②	
保冷库	80	×	
ライン整備	-	×	
その他設備類			
フレコン施設	200	②	
フォークリフト	300	×	②中山間地域特産物生産応援事業 中山間地域の3戸以上の組織等が集落の協力を得て事業を実施 契約・相対取引の実施 ソフト事業対象はハード事業実施主体のみ 補助額上限1,500千円 補助率 5/10(府単費:中古可)
米袋運搬機	100	×	
育苗施設内での運搬設備	-	×	
貯蔵施設	-	×	
精米機(無洗米対応)	280	②	
小売り用包装機器	-	②	
設備以外			
機械メンテナンス	-	×	
商品開発・プロモーション	-	②	

※農業経営体育成事業(経営支援・担い手育成課所管)
 事業費の50%以上を金融機関からの融資とする、
 事業後3箇年以内に新規雇用2名を含む常雇用5名以上確保、等の要件
 補助率3/10(国庫、府費:中古不可)